歌

溝清美

君

作 作 Ж 詇

さゆらぐ楡の嫩葉にも 丘* 陵* 大地はなごやかにうるほ の傾斜の若草や ひて

原始林の緑に流れ来る 春新生の精気は溢 呼青春の讃歌

る

悠久の蒼穹はるかにも 染めて溶けたる朝霧の 色紫色される の彩絹に

入江の波に夏陽は映ゆるいりぇ。なみ 白鳥高く海に飛び 濃き水色にうつろへば

若き人等の哀歓よ

白き葦穂波に顫ふ月 夕靄流る水沼のゆうもやなが すいしょう 知なれない に黄昏れ Ċ

幽っ 暗っ あん の草野に訪 いづれば

銀ぇ 壺こ 雪の曠野遠く静謐なゆきのとおしばか 神(しび こころ 崇き教訓を胸にしてヒカ ぉぃ^ ゚゚ の憧憬郷にまどゐする にゆるる 灯 の森林に群星さえて ŋ

Ŧi.

限^かぎれ 深き瞑想に過さずや 陽炎ゆらぐ春 うる 生い エの瞬時を の。 日 v